

アレスコ ALESCO

鳥取大学医学部保健学科広報
2012.2

No.10

改装工事が完成したアレスコ棟



広報誌名「アレスコ」説明文……………	1	平成24年度学年暦……………	12
写真で綴る新入生宿泊研修会……………	2～4	平成24年度学級教員……………	12
保健学科の将来に向けて 医学部長……………	5	平成22年度鳥取大学医学部保健学科 後援会事業報告……………	13
保健学科の近況 保健学科長……………	6	平成23年度鳥取大学医学部保健学科 後援会役員名簿……………	13
卒業生だより 緩和ケア病棟の出会い……………	7	平成23年度鳥取大学医学部保健学科 後援会事業計画……………	14
ジュリー・ポール氏を迎えて……………	8	編集後記……………	14
講座紹介 基礎看護学講座……………	9		
成人・老人看護学講座……………	10		
生体制御学講座……………	11		

アレスコ (ALESCO) とは
古代ラテン語で「成長する、発展する」という意味です。

写真で綴る新入生宿泊研修会

看護学専攻
新入生



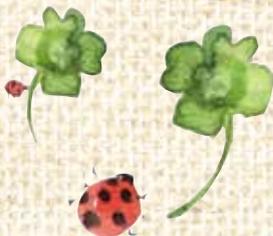
検査技術科学専攻
新入生



環境教育



施設見学（検査部）



昼食

TOTTORI UNIVERSITY SCHOOL OF HEALTH SCIENCE

1班



2班



3班



4班



5班



6班



7班



8班



TOTTORI UNIVERSITY SCHOOL OF HEALTH SCIENCE

9班



10班



11班



12班



13班



14班



15班





保健学科の将来に向けて

鳥取大学医学部長 豊島良太

ご存知のように、医学部は医学科・生命科学科・保健学科の3学科からなっております。

保健学科は一番若い学科であり、平成11年10月に、看護学専攻と検査技術科学専攻で設置されました。その後、平成16年には大学院の保健学専攻修士課程、平成20年には保健学専攻博士後期課程が設置されました。保健学科は着実に発展を続け、今では他の二学科と共に医学部を支える大きな柱となっております。いまの保健学科があるのも、歴代の保健学科長をはじめとする教員各位のご尽力と保健学科後援会の多大なるご協力とご支援によるものであり、鳥取大学医学部を代表して厚く御礼申し上げます。

さて、保健学科はさらなる発展を目指して新たな取り組みを始めております。平成21年には独立専攻の「臨床心理学専攻」が設置されましたが、保健学科との関係が深く、いろいろな形での共同の研究が開花、結実していくことが期待されています。さらに、平成24年4月には認定看護師を養成するために医学部附属病院に「キャリアアップセンター」が設置されます。認定看護師教育課程が実施されるため、保健学科が全面的に協力して、附属病院のみならず山陰に良質な看護を提供して頂けるよう取り組んでもらえるものと確信しております。このように、他分野の学問や臨床、地域との連携を進めておられますので、保健学科の学問の幅が広がり、大学の使命を果たすべくさらに新しく発展されますことを期待しております。

現在、日本では世界でも類を見ない少子高齢化が進みつつあります。そのなかでも鳥取大学医学部がある山陰地方は全国でも有数の少子高齢化が進んだ地域であります。本医学部はこの地域特性を活かしつつ、医療・医学研究に求められているものが刻一刻と変化するなかで、将来に向けた取り組みを実施し、地域社会のみならず国際的にも大きく貢献できる人材の養成を目指していきます。学生のみなさんが、将来の日本を引っ張っていくためにも、鳥取大学医学部でしっかりと勉学に励み、充実した学生生活を送ることができるよう、我々は最大限のサポートをしております。後援会の皆様にはこれまで多大なるご援助をいただいておりますが、学生達がさらに大きく羽ばたけるよう、引き続きご支援・ご援助のほどよろしくお願い申し上げます。





保健学科の近況

鳥取大学医学部保健学科長 廣岡保明

鳥取大学医学部保健学科は医療技術短期大学部が改組され、平成11年10月に開設されました。早いもので本年4月には13期生の新生を迎えます。その間、多くの卒業生が米子の地から全国に羽ばたき、各地で活躍されておられるのを見聞きするにつれて、保健学科での教育を物心両面で支えて頂いた保健学科後援会や関係者の皆様のおかげと、心より感謝いたしております。

さて、昨年度は山陰での元旦の大雪に始まり、3月には東北地方を襲った未曾有の大地震、さらには多くの国々での天変地異や紛争、そして経済危機など、一体日本のみならずこの地球はどうなってしまうのだろうかと思われた方もおられたのではないのでしょうか。特に、大震災とそれに続いた原発事故では、保護者ならびに関係者の皆様の中には言うに言われぬ被害に遭われた方もいらっしゃるのではないかと心痛めております。本学からもDMATその他で救援に向かいましたが、保健学科の学生の中からもボランティアとして少しでもお役にたてないかと東北に行ってきた者もいるようです。昨今の学生の無気力が指摘されている中で、そのような、何かをしないといってもたってもいられないという学生たちに対し、つらい東北の状況が伝えられる中で、一条の光を見いだしたような安堵感を感じております。それこそ、保健学科の教育目標の最重要項目である“いたわりの心”の実践でありませうか。

近年、各地で医療系大学や看護系大学の増加が相次いでおり、入試倍率の低下が危惧されております。本学保健学科でも入試倍率の低下を防ぐ種々の方策（広報活動）を模索しております。さらに、鳥取大学医学部保健学科で勉強したい、と思ってもらえるような独自性を出すとともに、地域のニーズを実現することで質の向上を目指していく努力を続けておりますので、それらを具体的に記載いたします。

- (1) 広報活動としては、学科のホームページを充実したり（この3月には内容が3倍増します）、ブログをつくったり（検査技術科学専攻）、教員が積極的に高校に出前講義に出張したり、在校生が出身高校に訪問して本学保健学科の良さを伝えてもらったり、高校生に本学で講義や実習を体験してもらったり、種々の広報活動を広く行っております。
- (2) 看護、検査ともに教育者が臨床の現場を定期的に体験する事で、より質の高い、実践に即した教育が可能となるのではないかとと思われることより、附属病院の看護部や検査部との交流をもっと強力に推し進めていければと思っております。
- (3) 看護学専攻では4年生の全員が看護師、保健師の国家試験を、10名程度（選択制）が助産師の国家試験を受験出来る体制をなんとか維持するとともに、鳥取県の支援を受けて平成24年度入学生より、定員80名中20名（推薦入試と前期入試）まで鳥取県の奨学金を受けられるようになりました。
- (4) 看護の教育、研究、実践（臨床）において指導的役割を担う事が出来る人材育成のため、大学院博士前期課程（修士）に専門看護師養成コースを設置できるように準備を始めております。その前段階として、医学部附属病院に看護師キャリアアップセンターが平成24年4月に設置され、そこに、がん化学療法看護認定看護師養成コースが平成24年9月より開講される事になりました。保健学科教員と附属病院教職員が主としてその講義、実習、演習を担当する予定ですが、今まで遠方（広島etc）でしか受講できなかった養成コースを、山陰で受講出来るようになった事は非常に意義深いものと思われまます。
- (5) 検査技術科学専攻では臨床検査技師の国家資格を取得した後に、更なる専門資格を取得したいというニーズに応えるべく、大学院博士前期課程（修士）に“超音波検査士コース”や“細胞検査士コース”を設置し、附属病院がんセンターや医学科とタイアップして、それらの認定資格取得のための指導を行っております。
- (6) 近年増加の一途をたどる認知症について専門的な知識や技術を備えた“認知症専門検査技師”を育成する試みを、本学保健学科が中心となって開始され、大きな期待が寄せられております。

今後も保健学科では、学生の質、教員の質そして学科全体のさらなる質の向上を目指して地道な努力を続けていく所存でございます。保健学科のさらなる飛躍のため、皆様方のご指導、ご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

卒業生だより～（第1回）

緩和ケア病棟の出会い

坂田 絢子（旧姓・山本）

看護学専攻・平成17（2005）年卒



このたび広報誌の新企画「卒業生だより」の第1号として、原稿を書かせて頂くことになり、大変光栄に思っています。私は現在、倉吉市にある藤井政雄記念病院の緩和ケア病棟に勤務しています。当院の緩和ケア病棟長である足立先生と広報委員長の安藤先生がお会いになられた際、私もご一緒させて頂いた事がきっかけで、今回のお話を頂きました。私は、今でも大学時代の授業プリントや実習記録を宝物のように大切にしています。安藤先生とお会いした際には、人間の死生観についていろいろお話することができ、学生時代を思い出し、とても懐かしく、嬉しい気持ちになりました。

私が緩和ケアに興味をもち始めたのは、学生時代でした。終末期看護の授業での、「人生の最期をその人らしく支える」という平松先生のお言葉に感銘を受け、将来は終末期看護に携わりたいと考えようになりました。

まず初めに、がん治療の現場を学びたいと思い、卒業後は急性期の病院に3年勤務しました。そして経験を積んだ後、緩和ケア病棟のある現在の病院に勤務して、4年が経ちます。当初は、がん患者さんの「死んだらどうなるんだろう」という死への不安の訴えを聴くことが辛く、自分なりの答えも見つからず、患者さんとのように関わればいいのか分かりませんでした。

そんな時にある患者さんとの出会いがありました。その患者さんは、舌がんで何度も手術を繰り返し、声が出せませんでしたが、常に前向きで治療をしてこられた方でした。毎日ニュースを見るのがその患者さんの日課だったのですが、その理由を聞くと、「最後まで、自分は未来を見ていたい」「最後まで、人の役に立ちたい」と筆談で話して下さいました。私は、患者さんの意志の強さを感じました。

私が病室を訪れる度に、その患者さんは、自分の人生で学んだ事をできるだけたくさん伝えようと、時間がある限り、生き活きと筆談で話して下さい、話の終わりには必ず「ありがとう」と言って下さいました。私も時間がある限り、患者さんの話を聴きました。こういう会話を繰り返す中で、患者さんと私は信頼関係を築くことができ、最期まで寄り添う看護ができたように思います。

この患者さんとの出会いを通して、限りのある時間を一生懸命に生きようとする患者さんやご家族を、最期まで精一杯支えていくことは簡単なことではないこと、私たち医療者はどのような思いで患者さんが人生を過ごされてきたかを知り、患者さんの気持ちになって考える必要があると痛感しました。患者さんの心に寄り添い、心と心の通じ合うようなコミュニケーションがとれた時、患者さんと私の間に穏やかな時間が流れるのを感じます。私は看護師としての喜びや幸せをそこに見出しています。

緩和ケアは、患者さんの死と向き合う辛さがありますが、とてもやりがいのある分野だと感じています。これからも、患者さんとの出会いを通して、自分自身も成長していきたいと思っています。



患者さんとの会話

ジュリー・ポール氏を迎えて

基礎看護学講座 松田明子

昨年11月、鳥取大学の学長経費・教育・研究改善推進費によりオーストラリアのパクシア州の緩和ケアサービスのセンター長であるジュリー・ポール先生を招聘させて頂きました。ポール先生は、看護歴29年のうち15年間を在宅緩和ケアに携わってこられた後、薬学修士を取得され、2005年10月よりビクトリア州で緩和ケアナースプラクティショナーとしてご活躍されています。オーストラリアでは登録看護師のナースプラクティショナーという職種があり、その役割は、薬剤の処方、診断、専門医への紹介、患者の状態を判断し入院させる権利などがあります。現在日本では、ナースプラクティショナーという職種はなく、その意義などが議論されています。さらに、その基盤となる看護基礎教育では、看護実践能力の向上を目指した教育の充実と看護師の能力にあった役割範囲の明確化が課題となっています。



ポール先生には看護学専攻の4年生を対象に「オーストラリアの看護学教育について」、大学教員や看護師対象に「疼痛アセスメントと緩和ケア」についてご講演いただきました。ここでは、看護学専攻の4年生を対象にした講演内容をご紹介します。

オーストラリアでは、看護師養成コース終了後、国家試験はなく、看護協会に登録し、毎年、試験を受けて看護師として登録する必要があります。試験を受け、登録するためには、各看護師が年間20時間以上、看護分野の研修を受けることが義務づけられています。また、継続的な専門能力を育成するために、自己の看護態度や知識・技術を研鑽するガイドラインなどがあり、それに沿って看護師は主体的に取り組み専門分野の学習を積んでいくシステムがあり、上記のようなナースプラクティショナーの役割や他職種との連携内容などについてご紹介がありました。さらに、2010年より看護学生も医療保健従事者の一メンバーとし位置づけられるようになり、健康管理専門職として看護学生の態度・知識・技術も大変重要であることを教授されました。



今春卒業し晴れて看護師・保健師となる4年生にとって、他国の看護教育の現状、看護師の役割、専門看護師の役割、医療従事者としての知識・技術・態度の育成を目的とした指針などを学び、看護実践に必要な知識・技術を維持・向上するための継続的な学習の必要性や、看護師の役割と責任について再認識できるよい機会となったと思います。

特集

講座紹介

看護学

基礎看護学講座

講座代表 深田 美香



教授 萩野 浩 深田 美香
 准教授 安藤 泰至
 講師 WILTSHIRE, Timothy Lewis
 笠城 典子 松田 明子
 助教 伊藤 靖代 大塚 美樹

講座の特色

基礎看護学は看護学の基盤となる学問・教育の領域であり、本講座は看護システム学と基礎看護学の2つの分野で構成されています。本講座では看護学原論、看護学方法論、生活援助論、疾病論、生命倫理学、死生学、医療英語など多様な科目を幅広く系統的に開講しています。大学生としての主体的学習態度を育むとともに、臨床判断能力の育成や倫理的な判断能力の育成も重視しています。また、開学から平成23年3月までに134名の学部学生、13名の大学院医学研究科保健学専攻学生が、本講座で研究に取り組み、現在、様々な場で活躍しています。

基礎看護学は看護の本質を見据えた広範な学問分野であり、多方面からの様々な試みが可能な分野でもあります。その奥深い可能性を大切に、基礎看護学の発展に寄与していきたいと考えています。

講座での主要な研究テーマとその取り組み

1. 看護ケア方法に関する研究：摂食・嚥下リハビリテーション、服薬に関する研究、がん患者のQOL評価と終末期看護に関する研究を行っている。
2. 運動器疾患に関する研究：転倒・骨折の予防、関節リウマチの診断と治療、骨粗鬆症の診断と治療など運動器疾患に関する研究や全国的な疾患統計の解析を行っている。
3. ストレスとリラクゼーションに関する研究：芳香や音楽聴取によるストレス緩和効果に関する基礎的・臨床的研究を行っている。
4. 看護実践能力育成に関する研究：看護実践能力の育成に効果的な教育方法とその評価についての研究、看護職者の生涯発達と看護実践能力の発達についての研究を行っている。
5. 遺伝カウンセリングに関する研究：チーム医療による遺伝カウンセリングシステムの構築および看護職の役割についての研究を行っている。
6. 生命倫理・医療倫理に関する研究：従来の生命倫理・医療倫理の議論を超えて「いのちの価値・意味」を問う新しい死生学、医療哲学の構築を目指す研究を行っている。
7. 外国言語における英語教育に関する研究



特集

看護学

講座紹介

成人・老人看護学講座

講座代表 森 本 美智子

成人・老人看護学講座では、成人看護学分野と老年看護学分野の2つの領域から構成されています。

成人看護学

成人看護学分野では、様々な健康問題をかかえる成人への看護について学びます。例えば、生活習慣性の慢性的な健康障害をかかえる人や、救急医療や外科的治療を必要とする人、終末期を迎える人、リハビリテーションを必要とする人などが看護の対象となります。本講座では、対象の個別性を踏まえながら、健康レベルや生活の質の向上の援助に必要な、専門知識と技術を、講義や実習をとおして学びます。



成人看護学「吸引」の授業



高齢者施設実習でのレクリエーション

老年看護学

老年看護学では、高齢者を取り巻く社会状況と発達課題をとらえ、加齢に伴う身体的・精神的変化を学びます。また加齢が疾病罹患時に及ぼす影響を理解し、生活機能の適応に向けての看護援助の方法を学習します。老年看護学実習では、認知症や高次脳機能障害をはじめ、様々な機能障害をもった高齢者とのかかわり、地域に帰るための生活機能の再構築と、環境調整の援助の実際を体験します。

看護学課題研究

当講座で3年次から課題研究にとり組んでいきたく学部4年次生が、研究成果を発表する場として、毎年12月に看護学課題研究発表会を行っています。昨年は、大学生の睡眠に関する研究、高齢者の口腔内乾燥に関する研究、生活習慣や糖尿病に関する研究など、8題の研究演題が発表されました。



研究成果を発表する4年生

特集

検査技術科学

講座紹介

生体制御学講座

講座代表 浦上 克哉

検査技術科学専攻の中で、生体制御学講座は主として基礎系科目の教育を担当しています。健康と生体情報、生理情報検査学のような生理学系の講義、人体の構造と機能、人体組織学のような解剖学系の講義、分析検査学、栄養と代謝、くすりと作用、医用工学、機器管理学、情報科学、管理システム学概論などの臨床検査の基礎となる科目のみならず、検査機器論、環境衛生学、医療データ解析学、関係法規、医療管理学、計算生物医学、遺伝子診断学など幅広く、今後発展が期待される分野に関わる科目も担当しております。また、検査学専攻以外の医学科、看護学専攻、生命科学科などの医学部内の他学科の学生に対する講義も担当しています。

このような講義・実習を通じて、医療分野およびその関連分野において必須な専門知識の習得はもちろんのこと、科学的思考能力、独創性や観察力を培い、生涯を通じて学習する意欲や能力を持った学生を育て、高度先進医療を行う際に、チーム医療に関われる人材を育成する気概を持って教育しています。平成16年度から大学院も設置され、より高度な知識と技能を有する臨床検査技師の育成を行うと共に、生命医科学分野の研究者育成への可能性も広げております。平成23年から本邦初の認知症専門臨床検査技師制度が立ちあげられたのにあわせて、認知症の診断・治療評価に必要な検査に対応できる臨床検査技師育成に取り組んでおります。



スタッフ

教 授	網崎 孝志、浦上 克哉、成瀬 一郎、二宮 治明
准 教 授	市川 修
講 師	上田 悦子、藤原 伸一
助 教	谷口美也子
事務職員	安田 絵里

平成24年度 学 年 暦

鳥取キャンパス（1年次のみ）

事 項	月 日
学年開始（前期開始）	4月1日（日）
春季休業日	4月1日（日）～4月9日（月）
入学式 全学新入生オリエンテーション	4月6日（金）
各学部新入生 オリエンテーション	4月9日（月）
前期授業開始	4月10日（火）
月曜日の授業を振替実施	5月9日（水）
鳥取大学記念日	6月1日（金）
金曜日の授業を振替実施	6月5日（火）
前期定期試験	7月31日（火）～8月6日（月）
夏季休業日	8月7日（火）～9月30日（日）
前期終了	9月30日（日）
後期開始	10月1日（月）
後期授業開始	10月1日（月）
金曜日の授業を振替実施	10月31日（水）
金曜日の授業を振替実施	11月27日（火）
月曜日の授業を振替実施	12月13日（木）
冬季休業日	12月22日（土）～1月6日（日）
大学入試センター試験準備による休講	1月18日（金）
後期定期試験	2月1日（金）～2月7日（木）
卒業式	3月18日（月）
春季休業日	3月19日（火）～3月31日（日）
学年終了（後期終了）	3月31日（日）

※4月21日（土）、22日（日）は保健学科、新入生宿泊研修、
県立大山青年の家にて行う。

米子キャンパス（2年次以上）

事 項	月 日
学年開始（前期開始）	4月1日（日）
米子地区（2年次生） オリエンテーション	3月30日（金）
前期授業開始	4月2日（月）
金曜日の授業を振替実施	4月3日（火）
月曜日の授業を振替実施	4月4日（水）
鳥取大学記念日	6月1日（金）
前期授業及び試験終了	8月17日（金）
夏季休業日	8月18日（土）～9月30日（日）
前期終了	9月30日（日）
後期開始	10月1日（月）
後期授業開始	10月1日（月）
金曜日の授業を振替実施	10月3日（水）
月曜日の授業を振替実施	10月4日（木）
月曜日の授業を振替実施	10月9日（火）
冬季休業日	12月29日（土）～1月6日（日）
大学入試センター試験準備により午後休講	1月18日（金）
後期授業及び試験終了	2月22日（金）
卒業式	3月8日（金）
春季休業日	3月9日（土）～3月31日（日）
学年終了（後期終了）	3月31日（日）

※卒業式は国家試験施行日により変更することがある。

平成24年度学級教員（看護学専攻）

専攻	入学年度	学 年	氏 名	所属講座
看護学	平成24年度	1年	松浦 治代 教授 仁科 祐子 助教	地域・精神看護学
	平成23年度	2年	花木 啓一 教授 鈴木 康江 講師	母性・小児 家族看護学
	平成22年度	3年	森本美智子 教授 前田 恵利 講師	成人・老人看護学
	平成21年度	4年	荻野 浩 教授 笠城 典子 講師	基礎看護学

平成24年度学級教員（検査技術科学専攻）

専攻	入学年度	学 年	氏 名	所属講座
検査技術科学	平成24年度	1年	鯉岡 直人 教授 福田千佐子 准教授	病態検査学講座
	平成23年度	2年	浦上 克哉 教授 谷口美也子 助教	生体制御学講座
	平成22年度	3年	山田 貞子 教授 中本 幸子 講師	病態検査学講座
	平成21年度	4年	成瀬 一郎 教授 市川 修 准教授	生体制御学講座

※両専攻とも1年生については、上記保健学科教員以外に、湖山キャンパスの教員数名が学級教員として学生の指導・相談の任にあたっている。

平成22年度鳥取大学医学部保健学科後援会事業報告

1. 教育援助

入学関連

入学式、新入生オリエンテーション（平成22年4月7日）、新入生合宿研修（平成22年5月8日～9日）

大学説明会関連

オープンキャンパス（平成22年8月7日、10月23日）

教育関連

2年次学生と教員との懇談会、朝食会、学生表彰

看護学専攻・検査技術科学専攻への助成

学外実習関連

学外実習援助

関連会費

全学共通教育助成費、医学部助成費、医学部国際交流助成費、日本臨床検査学教室協議会会費

2. 国家試験対策援助

1) 看護学専攻

看護師模擬試験、保健師模擬試験、助産師模擬試験

2) 検査技術科学専攻

臨床検査技師模擬試験

3. 就職対策援助

看護学専攻就職対策（情報収集）

検査技術科学専攻就職対策（情報収集）

4. 課外活動援助

錦祭

5. 後援会運営

広報誌アレスコ発行（No.9）、後援会役員会



平成23年度鳥取大学医学部保健学科後援会役員名簿

役員名	氏名	役員名	氏名
会長	永瀬和彦 検査3年	顧問	廣岡保明 保健学科長
副会長	森幸広 看護4年	〃	花木啓一 学生担当（看護）
〃	安達憲吾 看護3年	〃	乗越千枝 学生担当（看護）
常任理事	上川智之 検査4年	〃	山田貞子 学生担当（検査）
理事	堀江寿治 検査4年	〃	飯島憲司 学生担当（検査）
〃	大野原徹 看護3年	幹事	山根茂雄 学務・研究課長
〃	小椋克久 看護3年	〃	木村博明 学務・研究課副課長
〃	廣田裕 看護2年	書記	伊東輝治 教育企画係長
〃	西村祐二 検査2年		
〃	市田典浩 看護1年		
監事	松本隆 検査2年		
〃	山口秀美 看護1年		

平成23年度鳥取大学医学部保健学科後援会事業計画

1. 教育援助

入学関連

入学式、新入生オリエンテーション（平成23年4月7日）、
新入生合宿研修（平成23年5月7日～8日）

大学説明会関連

オープンキャンパス（平成23年8月6日、11月5日）

教育関連

2年次学生と教員との懇談会、朝食会、学生表彰
看護学専攻・検査技術科学専攻への助成

学外実習関連

学外実習援助

関連会費

全学共通教育助成費、医学部助成費、医学部国際交流助成費、日本臨床検査学教室協議
会会費

2. 国家試験対策援助

- 1) 看護学専攻
- 2) 検査技術科学専攻

3. 就職対策援助

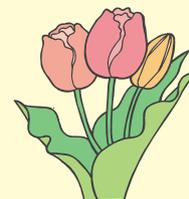
看護学専攻就職対策（情報収集）
検査技術科学専攻就職対策（情報収集）

4. 課外活動援助

錦祭

5. 後援会運営

広報誌アレスコ発行（No.10）、後援会役員会



編集後記

鳥取大学医学部保健学科広報誌、アレスコ（ALESCO）、第10号を発刊いたしました。本号から、医療界で活躍する保健学科の卒業生たちを紹介する「卒業生だより」の新コーナーを設けました。お楽しみください。また、保健学科長のご挨拶にもある通り、保健学科のホームページが大幅にリニューアルされました。本号から「アレスコ」は、保健学科のホームページ（<http://www.med.tottori-u.ac.jp/1/3/1262.html>）上でもご覧になれますので、冊子をなくしてしまわれても大丈夫です！ぜひご活用ください。ささやかではありますが、保護者および関係各位の皆様には、このアレスコを通じて、保健学科の「成長・発展（アレスコ）」の姿を、ご子息の学生生活の一端を垣間見ながら感じとっていただければ幸いです。

広報委員会委員長 安藤 泰至

発行責任者 鳥取大学医学部保健学科後援会
鳥取大学医学部保健学科広報委員会
発行年月 平成24年2月

発行所 鳥取大学医学部保健学科
〒683-8503 鳥取県米子市西町86番地